②

ピープルの地平へ

世界の市場化に抗して　6

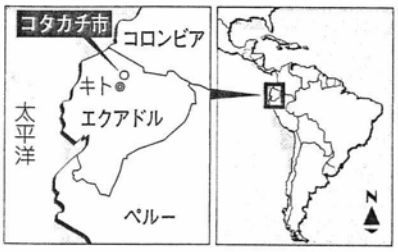
先住民族運動と連動して

エクアドル・コタカチ郡の挑戦

新木　秀和

市場経済のグローバル化は一九九〇年代後半以降、世界各地で通貨の暴落や債務危機を引き起こした。エクアドルが通貨スクレの暴落で深刻な経済危機に陥ったのは九九年。政府はスクレを廃止して米ドルに切り換える通貨政策を発表した。自国通貨を見限り、ドル化によってインフレを抑止し、物価の安定を計ろうとしたのである。

二〇〇〇年、グローバル経済に飲み込まれることを恐れる世論の反対を押し切ってドル化が断行されたとき、都市部を中心に中流層以上の人びとがスペインなど国外へ脱出する動きに拍車がかかった。しかし、その手だても財力もない貧しい人びとや地方の民衆は、地元に踏みとどまって「ドル化の荒波」を乗り越えるしかなかった。ドル化後、物価の便乗値上げが起きる一方、賃金水準は低く抑えられたままで、格差の拡大も顕著になった。人びとはドル経済に対抗する生活防衛の切実な必要性に直面したのである。



文化

そんな苦境にあって、地域通貨を活用する取り組みが広がった。地域通貨は、市場経済に代わる「もう一つの社会経済手段」として、顔の見える範囲を中心に交換される「自前の通貨」である。「シントラル」と総称されるエクアドルのそれは元々、ドイツ出身で首都キト郊外に住むマウリシオ・ヴィルド夫妻とその仲間によって九四年に始まった。その後、キト市内の低所得者居住区を拠点に徐々に普及していたが、ドル化後には、内陸のアンデス高地から太平洋岸まで八県に計約百二十のグループが結成され、全国で五千家族が参加する規模に拡大した。

【あらき・ひでかず】神奈川大外国語学部助教授（ラテンアメリカ地域研究）。1963年、愛知県出身。主な著書に「ラテン・アメリカは警告する」（共著）、近刊に「エクアドルを知るための60章」（編著）。

エクアドル北部のコタカチ郡は、地域通貨の活用が進む代表的な地域である。生活に必要な物の多くは地域通貨によっても手に入れることができ、地場の農産物などが並ぶ青空市場ではシントラルの紙片を手にする住民の姿が見られる。同郡は先住民族が郡人口の大きな比重を占め、スペイン語だけでなくキチュア語（有力な先住民族言語）の名称をつけたグループも組織されている。

九七年に「環境保全自治体」を宣言した同郡では、住民が自治組織や協同組合を作って環境や地元の文化・伝統に配慮した社会経済活動や文化活動を進めてきた。例えば、コーヒーを環境負荷の少ない森の中で栽培したり、女性たちが伝統的なカブヤ（サイザル麻）の編物や手工芸品を作り、その産品をフェアトレード（民衆交易）で国内外で販売している。また鉱山開発への対抗運動に取り組み、識字運動や先住民文化の見直しにも力を入れている。地域通貨も、そのような多様なオルタナティブの実践の一環なのである。

こうした持続的な試みを支えているのが、先住民族を含む住民の政治参加だ。エクアドルでは、九〇年六月に起きた全国規模での抗議行動を機に、先住民の政治参加を求める運動が活発化。九六年には先住民族と連携する社会運動が首長や議員を国政と地方政治の場に送り出し、コタカチ郡ではアウキ・ティトゥアニャ氏が先住民族の政治家として初めて知事に就任した。

「地方から先住民族の地位向上を進めていきたい」。二〇〇五年五月、日本のNGOの招きで来日したアウキ知事は東京での講演で語った。静かだが強い意志のにじむ口調が印象的だった。

彼が知事就任後まず実現したのが、住民が直接参加する「民衆議会」だ。毎年一回開催される総会には、先住民族や混血の人びとを含め多様な老若男女が参集し、誰もが等しく一票の議決権を持つ。そして、教育、農業、環境、観光（コミュニティーツーリズム）など分野ごとの会合で議論を重ね、各種プロジェクトを興す。予算の管理や知事ら行政官の仕事ぶりへの評価もなされ、「直接民主主義の実験場」ともいえる取り組みである。そのなかから、さまざまなオルタナティブの実践も生まれてきた。

産油国であるエクアドルの経済は、国際石油価格の高騰で現在は一時的な安定を維持している。しかし、市場主義が貫徹するにつれて、国内の経済格差がさらに拡大するのではないかという懸念が膨らんでいる。

ドル経済に対抗するには、地域通貨の「経済規模」はまだあまりに小さいが、それは地域の人びとの相互扶助の紐帯（ちゅうたい）となり、食料供給や雇用創出にも一定の成果を上げている。その取り組みを含め、先住民族の政治的権利要求の運動とも連動して、コタカチ郡に限らず各地に芽吹いてきたオルタナティブの実践を、いかに育み、どうつなげていくか。困難にひるまず、かの地で奮闘する人びとの挑戦に期待し、注目していきたい。

〈毎週月曜日に掲載します〉

コタカチ郡の民衆議会（2003年9月、エクアドル・コタカチ市。和田彩子さん撮影）